

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(7/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
つくば国際戦略総合特区 (茨城県、つくば市、 国立大学法人筑波大学)	3.0	3.5 進捗度 ・ライフ イノベーション・ グリーン イノベーションの 推進による 産業化促進 300% ・次世代がん 治療(BNCT)の 開発実用化 0% ・藻類バイオマス エネルギーの 実用化 688%	2.5 規制の特例等 ・搭乗型移動 支援ロボットの 規制緩和 等 地域独自の取組 ・ロボットスーツ 治験事業 等	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・連携企業と、藻類バイオマスの生産が当初目標をはるかに上回る成果となったことは高く評価される一方、成果を出している項目とそうでないものとの差が大きい。 ・9つのプロジェクトやTGI(つくばグローバル・イノベーション推進機構)の連携支援の進捗を説明する指標の検討が必要。 ・特区としての利点である規制緩和と財政・税制・金融支援の活用例が少ないので、これらの活用により研究開発の速度を上げるべき。 ・積極的に事業化のスキームを作ることも特区の目的であったので、事業化に向けての支援体制づくりを期待。